

令和7年度 岩手県立千厩高等学校
第2回学校運営協議会および高校魅力化推進コンソーシアム合同会議 議事録

日時 : 令和8年2月17日(火) 13:45~15:45

場所 : 大東町コミュニティセンター 会議室

出席 : 【学校運営協議会】

委員9名、事務局5名

〈委員〉

大矢功喜 ((株) 一関LIXIL製作所 シニアアドバイザー)

小田島玄 (県南広域振興局経営企画部 産業振興室長)

加藤博幸 (PTA会長 千住電子工業(株)購買課長)

齋藤裕之 (岩手県立千厩高等技術専門学校 校長)

佐藤毅行 (いわて平泉農業協同組合 千厩営農経済センター センター長)

千葉圭 (一関商工会議所千厩支所 支所長)

千葉弘之 (一関自動車学校 (商工会代表))

渡邊 淳 (一関市教育委員会 教育相談員)

熊谷道仁 (岩手県立千厩高等学校 校長)

〈事務局〉

高橋 亮 (教務課主任)

平山隆一郎 (生産技術科長)

佐藤 大 (産業技術科長)

松岡隆博 (教務課)

秋田浩介 (保健体育科)

【高校魅力化推進コンソーシアム】

委員2名、オブザーバー1名

遠藤桜 (一関市役所千厩支所 産業建設課 地域おこし協力隊)

千葉隆生 (千厩町まちづくり団体連合会 会長)

佐藤比呂子 (オブザーバー 一関市役所 千厩支所長代理)

合計17名

欠席 : 学校運営協議会 2名

岩淵 悟 (岩手県立千厩高等学校 副校長)

菅原秀彦 (岩手県立千厩高等学校 事務長)

高校魅力化推進コンソーシアム 9名

小野寺伸吾 ((株) デクノボンズ 代表取締役)

小野寺真澄 (ニッコー・ファインメック (株) 代表取締役)

佐々木朋和 ((有) げいび観光センター 常務取締役)

工藤英司 (国際医療福祉専門学校一関校 学校長)

小林淳哉 (一関工業高等専門学校 校長)

菅原由幸 (一関市役所 千厩支所長)

永澤由利 (一関市議会議員)

北田文人 (千厩まちづくり (株) 代表取締役社長)

菅原良一郎 (千厩ロータリークラブ 会長)

1. 開会のことば

熊谷学校長から、開会のあいさつがあり、今回初参加の方から自己紹介があった。

2. 校長挨拶および項目3について報告（学校概況説明）

校長より挨拶を兼ねて資料をもとに報告という形をとった。

「学校の現在の様子について。本日 SST・課題研究発表会を行い、2/20に3年生を送る会、そして3/1に卒業式を迎えます。私も今年の3年生と一緒に卒業ということになります。

来週の1週間は、「世の中を、深く知る WEEK」として、外部の方々を講師に迎え2/24, 26, 27と3日間講演会を予定しています。講師は、目が不自由な方、裁判官、世界の平和活動、東日本大震災の語り部、コンサートと多岐にわたっての講演会です。2/25は、実業系学科を中心に企業見学を予定しております。

3/18, 19は、千厩サポーターの方との交流も行われます。

今年の高校入試で千厩高校を希望した生徒は、普通科65名、生産技術科40名、産業技術科30名で、志願者合計135名になりました。昨年は142名でした。今年の目標は150名でしたが、少し足りないところではありましたが、生産技術科は1.0倍の競争率であり、県内59校で1倍を超えているのは13校しかなくその中に入っています。

中学生が私立高校に流れています。授業料無償化もあり、私立高校は1月のうちに生徒を確保できます。それが私立高校に流れている要因です。公立高校は、以前1月に行っていた推薦入試が廃止された。代わりに特色入試が実施され、一般入試と同日程で行われることも志願者減少（私立高校に流れる）要因です。いわて留学という県外生徒に受検してもらう制度がありますが、千厩高校はまずは地元の中学生が志望するような、地元で愛される学校を目指したいと考え、この制度は採用しておりません。

地域から要請のあったボランティアについては、すべてに参加しています。

部活動で特筆すべき結果としては、弓道部の女子生徒が国スポメンバーに選抜され国スポで6位入賞、卓球女子が東北大会出場を果たしています。

配布資料にある新聞記事は、51もの記事が取り上げられ、中でも、10/29, 30の自転車の安全運転特別授業は県内でトップであり、12/2, 3の記事の「漫才に挑戦」については、吉本興業に協力を得、岩手住みます芸人のお笑いコンビアンダーエイジを講師に迎え、生徒6組、先生4組が仕込みを受けた後、全校生徒の前で漫才を行い大いに盛り上がりました。

それでは、このあと重点目標に対する御意見を伺いたいと思います。」

4. 協議

議長選出

設置要綱第4条2により会長の千葉圭氏が議長を行った。

ア 令和7年度学校評価

(ア) 結果と分析

秋田事務局員から学校評価アンケート結果について、資料をもとに説明された。

校長から保護者・生徒・教職員からのアンケート結果の特筆すべき内容について、補足説明が行われた。

《承認》

(イ) 学校関係者評価

配布資料P17, 18の重点目標の1から順に、協議会およびコンソーシアムメンバーから意見・質疑を受け、意見交換を行った。

重点目標

- 1 「わかる」授業と個に応じた学び（個別最適）の実践や協働で学ぶ活動の往還により学習の定着を図る。

A氏：学校へ行こう週間のとき実習を見学したが、自分のペースで作業を行っており個別最適そのものの授業内容であった。

B氏：今の時代、指示待ちでは、必要とされる人材にはなれない。目を見て話すことも大切である。また、来週行う予定の「世の中を、深く知る WEEK」は非常に良い行事だと思います。「現在・過去・未来」と想像するのではなく、「過去・現在・未来」の順で想像していくことが大切である。

今日午前中行われた発表会では、生徒達の生き生きした発表を見ることができ、自分の進路など未来を見据えた内容になっており、PDCA がしっかりなされていた。

C氏：自分の高校時代などは探究が無い時代でしたが、昔と違って探究活動が行われることにより、生徒が自分で考えて話ができるようになってきていると思う。

A氏：重点目標とは関係ありませんが、先ほどのアンケート結果で、あいさつや服装などモラルに関する自己評価が低くなっているようですが…

熊谷校長：校内では、挨拶が十分なされているとは思いますが、登下校中など街の中では知り合い以外にはあまりやらなくなっています。

生徒の中では、派手な格好をしてくる生徒がいるが、それを嫌がっている生徒もいる。千厩高校では校則を自分たちで決める形をとりながら、モラルとは何なのか生徒に考えさせている。

そのままの格好で、就職試験を受験に行けますか？というようなことも伝えている。

B氏：企業の採用側では考えが変わってきている部分もある。例えば、茶髪でも中身がよければ採用する、というように考えを変える必要も出てきているのかもしれない。

D氏：会社ですっと言われ続けているのは挨拶。昔は、地域の方からも生徒からも挨拶がなされていたように思いますが、現代では、大人から生徒に声をかけると違った意味（変質者等）で捉えられる可能性があるのでは、なかなか声をかけづらい社会の変化もあるのかもしれない。

熊谷校長：会社として、できる人やできない人とはどのようなものですか？

D氏：昔は、言われたことをやっていたらよかったが、今はそれにプラスして自分のアイデアを入れることができる人がよい。もちろん、言われたことができない人はさらにだめです。

E氏：今の時代、情報が簡単に手に入るため、結論がすぐ見えてあまり考えなくても、得た情報で判断するようになってきている。しかし、仕事を与えてみると案外できていなかったりする。そういう時に注意はしているが、頭でっかちになっている。

中には、独創性があり情報を上手に使って一つのことをやり遂げている者もいます。

得た情報を、単純にうのみしてやってもいけないことを結論づけるのはどうかと思う。

また、個で情報は得ているが、チームみんなの一つのことに夢中になって取り組んだりすることがなくなっている。

F氏：コロナショックで、多感な時期に「声はかけるな」「触るな」という状況だったのが、今の中高生あたりなのかもしれません。そのため、コミュニケーションの取り方が分からないということもあるかもしれません。

《承認》

重点目標

- 2 心身ともに健康でたくましい生徒の育成を図る。

A氏：新聞記事が51記事もあり、街としてもすごく感謝している。

地域と学校がお互い必要とする関係が大切なので、熊谷校長は今年でご退職ということですが、今後も継続してほしい。

熊谷校長：ありがとうございます。今後も続けていってほしいです。

健康診断の結果などを見ると、本校の生徒は肥満が比較的多い。登下校も歩かず、ドア to ドアで、自宅から学校まで送迎してもらっているのも一因。全国的に熊の出没があり、送迎はやむを得ないところではありますが、学校までではなく途中のコンビニまで送るなど、いろいろ考えてはみましたが、何かよい案ありますか？

また、ジャンクフードを食べている生徒も多いような気がします。

C氏：自分も高校時代、吹奏楽の部活動のあとなどよくコンビニで買ったものを食べたりしていました。

今私はジムに通っています。外でトレーニングしようとしても、寒かったり雨が降ったり冬は凍結しているなど様々なリスクがあるので、近くに室内でトレーニングを行えるようなジムなどがあればよいと思う。

熊谷校長：今野球部の生徒らで、朝学校のウェイトルームでトレーニングをして、身体づくりに励んでいる生徒もいます。そのように、室内で行えればよいですね。

D氏：コンビニで簡単にジャンクフード的なものを買えたり、あと「MONSTER」や「レッドブル」のようなスポーツドリンクを飲んでいる。あまり身体にはよくないと思いますが。

〈承認〉

重点目標

3 すべての教育活動がキャリア教育に通じるとの認識のもと、進路実現に向けた指導の充実を図る。

G氏：生徒が将来の進路決める時期はいつ頃ですか？

事務局：大学進学希望者は、1年時に決めている。

就職希望者も、1年時にある程度決めている。就職希望者で管内県内でどのような企業があるか分からない生徒が多いので、それを1、2年の頃に教えていくのが課題です。

熊谷校長：企業側として、高校のうちにやっていたほしいことは何ですか？

H氏：先生たちが、なぜ教員になろうとしたのか、いつそれを考え始めたのかなど自分の経験談をお話することがよいキャリア教育に繋がっていくと思います。

D氏：生徒が、就職先を決めている実情は、生徒自身が行きたい企業に行っているのではなく、先生や親に勧められた会社に決めていることもあると思います。

そのためにも、企業を教えるのは大切なことだと思う。

B氏：親を対象にした企業説明会を、昨年から行っている。

熊谷校長：生産技術科、産業技術科については、たくさん企業見学に行っています。

〈承認〉

重点目標

4 学科毎の学びの特徴を活かし、課題を設定、主体性を活かした探究活動を推進して課題解決能力の育成を図る

F氏：今日の発表会のメンバーはどうやって決めていますか？

事務局A：生産技術科では、学科の中で選考を兼ねた発表会を行い決めています。

生徒達は、その発表会に向けて自主的・主体的に準備を行っており、土日に学校に来て、研究に関わったりしている。

事務局B：産業技術科でも同じように、選考会を兼ねた学科内発表会を行い決めています。今日の発

表会では、この会場に持ってきて展示できるものについては展示発表の形をとり、モノを持ってこられないものをステージ発表としました。

事務局C：普通科は、普通科で同じように選考を兼ねた発表会を行い決めています。

《承認》

重点目標

5 実効性のある「学校いじめ対策組織」を構築し、組織的にいじめの未然防止・適切な対処に当たる。

熊谷校長：千厩高校では、年に2~3件発生し、SNSがらみの事案が多い。

問題が発生したらすぐ管理職にあげ、管理職が中心となり適材適所に指示を与え組織的に対応しています。重大案件は、発生していません。

I氏：重大案件がないということで安心しております。

生徒の学校評価の回答で、いじめ対応が早期に行っていると答えた生徒が84%だが、いじめに全く関係のない生徒はいじめの取り組み自体も知らないの、評価がよい方にならないと思います。それで84%の評価になっているのではないかと思います。

(ほぼ100%では?)

E氏：いじめがあった場合、先生達はどうやって分かるのでしょうか?

熊谷校長：生徒達からの自主申告や、おとなしい生徒については保護者からの申し出がある場合もあります。

H氏：先生達が、分かたらすぐ対応しているので、生徒の学校に対する評価が上がっていると思います。この「すぐ対応する」ということが大切だと思います。

《承認》

重点目標

6 体罰・暴言等の不適切な指導を発生させない組織作りを進める

熊谷校長：先日、生徒から部顧問に対する訴えがあった。それは顧問の先生の機嫌が悪いのが原因というのが分かり、その先生を指導しました。隠ぺいが一番よくない。

A氏：生徒の学校評価の回答で、先生が生徒を個人として尊重していると答えた生徒が91%というのはよいです。

B氏：逆にこの評価で9%は違う答えをしていますが、何事も1:8:1の原理があり、すごくよい“1”、よい“8”、よくない“1”という割合になります。すごくよいが1あれば、よくないも1があることは当然のことだと思います。

事務局D：本校の生徒は、素直な生徒が多いです。その分我々もだまされないようきちんと指導していかなければならないと思っています。

《承認》

(ウ) 改善方策

(ア) 結果と分析および(イ) 学校関係者評価のなかで、改善方策についても議論されたためここでは割愛された。

イ 令和8年度学校運営協議会委員

事務局：みなさんに来年度の委員について、FAX用紙を配布いたしますので、こちらに記入して3/13まで返信をお願いいたします。

できる限り継続でお願いできれば。

役職が変わる方がいらっしゃれば、後任の方に引き続き御依頼をお願いいたします。

ウ その他

熊谷校長：一関市が大東支所に籍をおいた学校コーディネーターを公募して1名が大東高校に採用されました。これは大東高校を応援する会、というのがあり、その会から市に依頼しコーディネーターの配置にたどり着いたようです。

千厩高校でも、コーディネーターを配置できないか考えています。その趣旨は、普通科の探究活動を行う上で、地域の方々との橋渡し役などを行っていただきたいということです。西和賀高校でも探究活動が目玉となり、その探究活動を求めて入学している生徒達もいます。

千厩支所長にこのコーディネーターの配置をお願いしたところ、県立高校なので街の方々地域の方々から声を上げてほしい、ということでした。よろしければ、千厩高校を応援する会に皆さんも入っていただき、特に活動をするわけではありませんが、ここでみなさんから総意を頂き、千厩支所長に学校運営協議会と高校魅力化コンソーシアムの方々からもコーディネーターの依頼があることを伝えられるようにしたいと思いますかどうか。

この話は、PTA役員会からも話が出ました。そして同窓会、そして皆さんからも賛同を頂きたい。

I氏：熊谷校長先生からこの話を頂きました。校長先生がおっしゃった通り、地域の方々からの御意見としてコーディネーターの配置を希望されるということであれば、今後、対応を検討していくことになります。

E氏：学校運営協議会会長としても地域と学校の連携は必要であり、少子高齢化の時代となりとても大切なことだと思いますので賛同いたします。

A氏：地域と学校の連携は必要でありますので、この意見に賛同します。

他、特に反対意見はなく、学校運営協議会と高校魅力化コンソーシアムとして賛同することを確認。

5 その他

A氏：この会を年に1回ではなく、何度かこういう機会を設けてはどうでしょうか。

熊谷校長：メーリングリストを作り情報の共有をしながら、意見交換をできるようにしていきます。

6 閉会の言葉

熊谷校長から、閉会のあいさつがされた。

